

広報クイズ

【応募方法】 はがきに答え、住所、氏名、年齢、ご意見を書いて白根市役所広報係(〒950-12 白根市大字白根1235)へ。締め切りは1月16日(木)必着。正解者の中から抽選で5人に500円の図書券を、3人に県立自然科学館招待券をペアで差し上げます。

【問題】

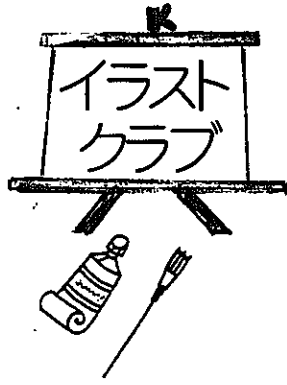
- ①市内の保育所・児童館の数はいくつ?
(ヒント=6ページ)
A=17 B=27 C=37
- ②上八枚保育園の子供たちにプレゼントされた洋ナシの名前は?(ヒント=13ページ)
A=ラ・フランス B=新高 C=ル・レクチェ
- ③白菜が日本に来たのはいつごろ?(ヒント=18ページ)
A=明治初期 B=大正後期 C=昭和中期

【当選おめでとう】 先月の正解は①A②A③Aでした。【図書券】池浦文(上塩俵) 田辺美鈴(中笠巻) 阿部鈴子(中山) 柏由紀(下木山) 早藤恵子(白井) 【自然科学館招待券】佐藤純(水道町) 遠藤美幸(田尾) 石丸葉子(大通南)

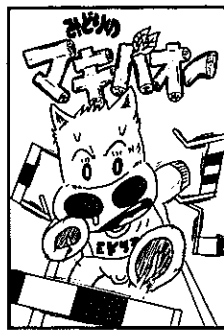
今月のハガキから

- ◎白根市の人口が4万人になる日がとても楽しみです。(H)
- ◎12月1日号に載っていたMさんみたいに、私もイラストのスペシャルコーナーをやってほしいなと思います。1度カラーイラストを書いてみたいです。(S)
- ◎自然科学館の招待券が当たりました。とてもうれしくて、みんなに自慢してしまいました。これから行ってみます。(H)
- ◎雪国新潟、これからが大変です。除雪作業、車も人も通りやすく危険のないように頑張ってください。(T)

- ◎イラストははがきに黒一色ではっきりと。
- ◎薄い鉛筆書きはボツにします。
- ◎ペンネーム希望の人も住所、氏名、年齢を忘れずに。採用分には粗品を進呈。
- ◎締め切りは毎月15日。それ以降に届いたものは翌月に回します。
- ◎あて先 〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所広報しろねイラスト係



▲P.N. ルパン四世さん (鯉沼・16歳)



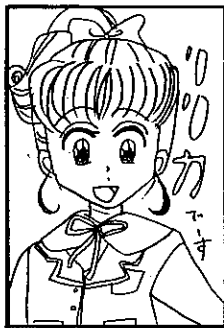
▲P.N. すしねごさん (朝捲)



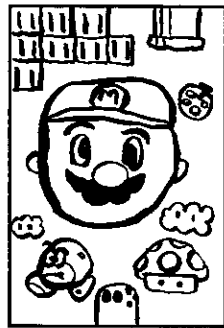
▲P.N. 20本のペンさん



▲池田みさきさん (七軒・5歳)



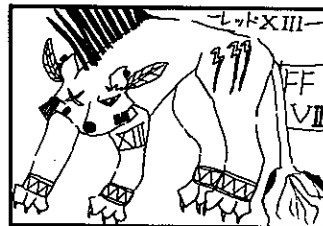
▲近藤このみさん (沖新保・8歳)



▲わだしのさん (大通南・7歳)



▲P.N. でんでろり〜んさん (七軒町)



▲P.N. 茶太郎さん (大通南)

Talk & Talk 市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただきます。あて先は広報広聴係(〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画財政課)です。

一人暮らし

渡辺タチ(中笠ノ木)

一昨年、主人をなくした私の一日は、日課である朝の散歩から始まります。肌で季節を感じ、畑で働いている人たちとあいさつをし、「今日も一日楽しく過ごせますように」と心の中で願います。

月に一二度は、東京から息子が仕事かたがた顔を見せて、家のことを手伝ってくれるので助かっていますが、一人暮らしの一番の楽しみと言え、やはり友達との会話です。白根市にも市営の憩いの家や湯治場のようなものがあるといいなと思います。

これからは高齢化社会の時代です。もともと、老人福祉に力を入れてほしいと思います。

小さな命

江口静子(下笠ノ木)

「早紀ちゃん、おはよう。起きてもいいよ」。毎朝、花とおもちゃに囲まれた外孫の早紀ちゃんの写真に話し掛けます。孫の心臓には穴が空いていました。考えてもみなかったことです。小さな体で五時間の手術に耐えましたが、天国へ行ってしまうのです。

孫の死で、人間五体満足で健康であれば、それ以上の幸せはないのだということが骨身にしみました。仕事を休んでも孫の澄み切った瞳を思い出しては胸がいっぱいになり、命の大切さを思わずにはいられません。孫は、天国に行きましたが、私たち家族にたくさんの教訓を残してくれたのです。家族の協力

市政 Q&A

Q

新飯田地区内に宅地造成を行い、地区外から移り住んでくる人たちの増やす構想があるといううわさを聞いています。それは、現実されるのでしょうか。それは、早い時期なのでしょうか。住民は皆、人口の減少を早急に防がなければならぬと思っております。教えてください。(市内・女性・五十四歳)

A

ご質問のとおり、現在、新飯田地区内に住宅団地を造成する計画が進められています。この団地造成は、農村活性化土地利用構想という計画に基づいて行われるもので、過疎化が進む農村地帯に住宅や店舗、工場などを造って活性化させることを目的としています。白根市の土地利用は、国土利

がなければ、あの辛い日々を乗り越えることはできなかったらと思う、改めて家族の大切さを感じました。

用計画(白根市計画)を基本に「都市整備基本計画」と「農業振興地域整備計画」の整合を図りながら行われています。白根市の場合、市街地を除いた地区のほとんどが、農業振興地域に指定されています。これらの地域では、農業振興地域整備計画をもとに農業施設の整備や土地利用が行われています。

新飯田地区も、この区域に含まれていますが、近年、人口が減少し、農業の担い手不足や高齢化が進み、このままでは小学校の存続さえ危ぶまれるような状態になってきました。これらのことから活性化構想が適用されることになったのです。構想を適用するには、農用地区域以外に代替できる土地がないこと、事業が五年以内に完了することなどいろいろ条件があります。新飯田地区はこれらの条件を満たしていることから、現在、計画が進められています。

この構想は、市が作成し、県知事の認定が必要です。認定を受けた後、必要な諸手続きを経て、開発事業者が団地を造成する予定です。皆さんのご理解とご協力をお願いします。※お問い合わせは市役所都市整備課都市計画係(☎373・2111 ④391)へ

市民文芸

- 俳句
- 予定通りにゆかぬ冬支度 和来 伸子
 - 仏飯の湯気ほのぼのと今朝の冬 小林 光子
 - 珍茶のすみて午後よりお講婆 五十嵐 智恵子
 - 晩秋の渚に拾ふ小貝かな 豊木サグ子
 - 隙間風背にして炉火に真向ひし 安沢 飛浪
 - 宿下駄の二つの音の月仰ぐ 猪股 南魚
 - 昏れてゆく時雨の村の旅にあり 公條 雪夫
 - 敗荷のやぶれかぶれの親しさよ 樋口 トシ
 - 神一つ残してなべて挽がれあり 古川 綾
 - ざわめきて総立ちしたる稲雀 堀内ナナ子
 - 朝露をゆさぶり落し菊を摘む 山田 孝
 - 一刻を時雨れし後の星二つ 吉川八重子
 - 白菜漬重石に鈴問はれけり 真島つぎえ
 - 枯荷に惜しき色あけ夕暮 小林 なお
 - 耳立てて睡る番犬十二月 小林富沙子
 - 菊を焚く煙か寺の裏通り 小野 義之
 - 喋りすぎ書きすぎ見すぎ十二月 山田 栄一
 - 農機具を納屋に眠らす十二月 知野信一郎
 - 一月の募金が光る十二月 金子 千代
 - 十二月わが耳鳴りを聞いてをり 塚本 静子
 - 雨風に曲りしままの菊枯る 岡島きよ子
 - 竹林に風が棲みつく十二月 岡島 秀穂
- 短歌
- 家蒸みな生評はなれし旅にして 山際恵美子
 - トランプ遊びに夜を更かしつつ
 - 今朝みえし山茶花のはな午にして 芝生の上に白く散り果つ 大旗 イツ
 - 二つとはあらぬが良きと我が作も 陶芸展の一隅にあり 田中 恭子
 - 乗り馴れし人亡き車ガレージに 運りし形とどめて久し 木川 久子
 - 葉がくずれ山橋のつぶら実は 朝光うけて来のさくらめく 阪井いづの
 - 生かされて生かされてとふ言の茶を 年老いし今しみじみと思ふ 齋子
 - ゲートボール失格を受く八秒と まごつく我は怒声に聞こゆ 安達 富美
 - 年の瀬に思い出多く残しつつ 過ぎ去る月日淋しさも有り 河内 勝哉
 - 安宅医の今をさかりと咲く萩の 美しさに見とれしはしながむる 小出熊四郎
- 川柳
- ドンド焼きスルメで妻と酌むお屠蘇 田村 恒夫
 - 温かい壺も我が家の潤滑油 高橋 裕四郎
 - 「食」の年越えて明るい 丑の夢 中村 尚治
 - 瞳の中にたたくて残す亡夫の影 西条 ムラ
 - 誤解だと気付きたすら鏡拭く 山岡 フミ
 - いい仕事今日一日を燃やして 吉川 彰
 - 耳よりな話についてきた悪魔 今井 七郎
 - どれほどの涙くれますわたしの死 織田 福治
 - 夕焼けがとつてもきれいな遠眼鏡 織田 セツ
 - コンタクト探すメガネが見つからぬ 大谷 龍吉
 - クラス会昔の呼び名で盛り上がる 岡 満記子
 - トリックは鏡だけ知るサスペンス 後藤 マサノ
 - 健康になれる眼鏡が買いたくて 佐藤 トミノ
 - 茶婦の家敷居を高くしてねむり 佐藤 ヨキ
 - 皿高く積んで回り寿司ファン 今井八重子